

2020（令和2）年度決算について

学校法人 桃山学院
理事長 出田 善蔵

2020(令和2)年度学校法人桃山学院の決算は、監査法人ならびに監事の監査を経たうえで、2021年5月25日(火)開催の理事会で承認されました。ここに決算概要の説明と決算諸表の公開を以下のとおり行ないます。

[決 算 概 要]

(1) 資金収支計算書

資金収支計算書は、年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容を明らかにするとともに、支払資金の顛末も明らかにする書類です。ここでは、予算額との比較で説明します。

2020年度の決算は、収入の部合計で1億5,885万円増加の217億8,133万円となりました。これは主にその他の収入および前受金収入の増加によるものです。前受金収入については、法人全体で295名の入学定員増が認められたことにより授業料前受金等が増加したことなどが要因となります。なお、その他の収入については、預り金からの支出が減少し、一時的に預り金収入が増加したことによるものです。

一方、支出の部では新型コロナウイルス対策として総額5億3,644万円を計上し、大規模な感染予防対策、家計急変者への経済的支援および大学生に対する緊急修学支援金の支給を実施しました。しかしながら、2020年度から開始された「高等教育の修学支援新制度」の対象者が予測を下回ったことで奨学費支出が減少したこと、秋学期より運用を開始した新校舎(聖テモテ館)に係る水光熱費などの諸経費が予測を下回ったこと、留学支援などコロナ禍において実施できなかった業務が発生したことなどにより、教育研究経費支出が4億7,156万円減少するなど、各科目において支出が減少しました。

このように収入増、支出減の結果、翌年度繰越支払資金は10億9,143万円増加の86億9,021万円となりました。

(2) 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は資金収支計算書の内容を3つの活動区分(教育活動、施設整備等活動、その他の活動)に区分し、活動区分ごとに資金の流れを明らかにするための資料です。その中でも、教育活動の区分は、学校法人のいわゆる本業にあたる部分となり、教育活動資金収支差額は、本業での資金の顛末を明らかにしています。

はじめに学校法人の本業にあたる教育活動による資金収支差額は、12億2,879万円となりました。

次に施設整備等活動による資金収支については、新校舎(聖テモテ館)の建設を主な要因として、施設関係支出22億5,380万円、設備関係支出4億7,996万円を計上したことにより、施設整備等活動資金収支差額は18億8,420万円の支出超過となりました。

それらの要因に財務活動や預り金の受払い等の経過的な活動を記載するその他の活動

による資金収支を加算した結果、支払資金の増減額は765万円の増加となりました。

(3) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、年度の教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動に対応する事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにし、事業活動収支の均衡の状態(経営状態)をあらわす書類です。計算技術的には、企業会計の損益計算書とよく似ています。ここでは、予算額との比較で説明します。

事業活動収入では、大学の退学者数減少による学生生徒等納付金の増加、教育大学における現物寄付の受入れに伴うその他の特別収入の増加などがあり、事業活動収入計は881万円増加の115億6,683万円となりました。

事業活動支出では、教育研究経費および管理経費などの減少により、事業活動支出計で117億2,769万円となり、7億5,962万円減少しました。

これは既述の通り、新型コロナウイルス対策(大学生の学修・通信環境整備を目的として給付した緊急修学支援金をはじめ、遠隔授業実施に関する設備整備費および運用費、感染防止対策に係る費用等)として総額5億3,644万円(資金収支ベース)を計上し、大規模な感染予防対策を実施したものの、2020年度から開始された「高等教育の修学支援新制度」の対象者が予測を下回ったことで奨学金支出が減少したこと、秋学期より運用している新校舎(聖テモテ館)に係る水光熱費などが予測を下回ったこと、留学支援などコロナ禍において実施できなかった業務が発生したことなどにより、教育研究経費支出が減少したことが主な要因となります。

このように予算額との比較では収入増、支出減となりましたが、大規模な新型コロナウイルス対策を実施したことなども起因して、基本金組入前当年度収支差額は1億6,086万円の支出超過となり、事業活動収支差額比率は $\Delta 1.39\%$ となりました。

また、基本金組入額は、2,522万円増加の18億2,708万円となりました。その主な内容は図書や備品関係などの恒常的な取得資産の他に新校舎(聖テモテ館)竣工に伴う組入があげられます。

(4) 貸借対照表

貸借対照表は期末における学院の財政状態を示します。ここでは、前年度決算額との比較で説明します。

有形固定資産では、新校舎(聖テモテ館)竣工に伴い建設仮勘定からの振替も含めて建物勘定が37億5,511万円増加するなど有形固定資産全体で14億3,108万円の増加となりました。特定資産では、新校舎建設に係る資金対応として将来構想資金引当特定資産を取崩したことなどから5億3,040万円の減少となりました。その他の固定資産では、長期貸付金が1,057万円減少し、固定資産全体では8億7,493万円増加し、785億5,110万円となりました。

流動資産では、未収入金の増加などにより、合計で90億4,214万円となりました。その結果、資産の部合計は、9億2,478万円増加し、875億9,325万円となりました。

負債の部では、固定負債における長期未払金の増加、流動負債においても大学の入学定員増に伴う前受金の増加などにより、負債合計で10億8,564万円の増加となりました。

結果、純資産額は2019年度末に比して、1億6,086万円減少の809億8,715万円となり、純資産構成比率は92.5%となりました。

なお、各々の科目の数値等につきましては別掲「各種計算書類」を、上記財務4表における実績ベースでの経年の概況・比較につきましては決算経年推移資料をご覧ください。

以 上